

市町村合併に関する 市民懇談会

速報!

市では六月二十六日から七月六日まで、市内六会場で「市町村合併に関する市民懇談会」を開催しました。懇談会では、任意の合併協議会での協議内容など、合併に関する市の取り組みを市長が説明するとともに、参加した皆さんとの質疑応答などを行いました。今号では、六月に開催した懇談会の概要についてお知らせします。

長期的な視野に
立ったまちづくり

私は昨年の三月に、市町村合併について、合併特例法の期限をにらみながら政令指定都市に向けた研究を進める」と表明しました。この決断にあたっては、新津市とつながりが深い三市中蒲原郡をはじめとする近隣市町村の情勢を把握しながら、また県の合併促進要綱や、新潟都市圏ビジョンによる政令指定都市の考え方などについても、十分検討を行いました。そして、先人が積み重ねてきた新津の歴史や将来を見据えるとともに、地方分権時代における行政の在り方や市民の幸福を、長期的な視野に立って考えました。

市長による 状況説明



圏の交流や経済活性化が見込まれるとともに、交流を通じた人材育成も進みます。雇用についても、第二次・三次産業などさまざまな集積によって拡大が期待できます。

また政令指定都市では、区制も敷かれます。現在新津市が協議を進めている新潟地域合併問

題協議会でも「分権型政令指定都市を目指す」としてあり、それぞれの区に一定の権限を持たせることを考えています。そしてこの実現に向けて、新津市は「新津区」を目指したいと考えています。

新津の宝を生かす ための建設計画

市町村合併にあたっては合併建設計画を策定し、今のままの新津市では実現が困難な事業も、この計画を通じて取り組みたいと思っています。

新津の宝である里山は、花と遺跡のふるさと公園や石油産業遺産など、将来的には丘陵全体を保存・管理し、動植物の生息と住む人へのオアシスにしたいと考えています。二十五兆円の経済効果があるといわれるパイオに閉じては、この春に株式会社を立ち上げました。今後は研究施設の集積により、新津だけでなく新市全体の発展に貢献するものと期待しています。

また蒲ヶ沢の新駅建設によるパーク・アンド・ライドや、阿賀野川水辺プラザにおける川の動植物についての博物館整備など、広域的な環境施策を計画していきます。新市は約三万畝の農地を有することになり、農業

振興においても、現在白根・豊栄とプロジェクトチームで考えているところです。

建設事業については、区の事業は地元業者で行えるようなやり方を、任意の協議会で主張していきます。その一方で、下水道の普及が進んでいる新津の技術力を、他地域で活用することも考えられます。

「ミニユニティ」による 住民の声の反映

広域的な合併で、地域の声が行政に届かなくなるといふ心配の声を聞きます。政令指定都市になるまでは、旧市町村単位での地域審議会が市長に提言する制度が作られることが合意されています。この制度を政令指定都市となっても残し、その下に地域のミニユニティ団体を位置付け、住民から区長へ、そして区長から市長へ声が届く制度の確立を、協議の場で強調していきます。

今後は、任意の協議会での審議終了後に、もう一度こうした市民懇談会を開催し、その後全成人を対象とした意向調査を実施します。その結果を参考に合併についての決断をし、議会に提案したいと考えています。